

三遠南信地域連携ビジョン 概要版

三遠南信地域連携ビジョン概要版

—世界につながる日本の中央回廊— 三遠南信 **250** 万流域都市圏の創造

三遠南信地域は、愛知県東三河地域、静岡県遠州地域、長野県南信州地域からなる3県の県境地域です。人口230万人、豊かな経済資源や多様な自然環境、特色ある歴史・文化は、都道府県にも匹敵する大きなポテンシャルを有しています。近年、市町村合併や広域交通ネットワークの整備による地域構造の変化、また、道州制や国土形成計画など国の地域づくり制度の検討が進められる中、地域住民をはじめ、大学、経済界、行政など圏域の発展を願う様々な関係者が力を合わせ、「三遠南信地域連携ビジョン」を策定しました。

「三遠南信 250 万流域都市圏の創造—世界につながる日本の中央回廊—」をテーマとし、三遠南信に対する思いと活動のベクトルを一致させることにより、相乗効果を発揮し、地域の振興発展を加速させていくことを期待しています。圏域の皆様には、「三遠南信地域連携ビジョン」にご理解をいただきますとともに、ビジョン推進に積極的なご参加をお願い申し上げます。

■ 三遠南信地域連携ビジョンを策定するに当たって以下の5つの目的があります。

- 道州制や国土形成計画など県境を越える地域づくり制度へのアピール
- 経済活動のグローバル化に対応した県境を越える産業競争力の強化
- 市町村合併による地域構造の変化に対応した広域行政の推進
- 地域連携活動の相乗効果の発揮
- 県境を越えた社会基盤を活かした地域づくり

■ 目標期間

三遠南信地域連携ビジョンの目標期間は、概ね10年間とし、三遠南信地域の目指すべき将来像と連携事業の方針を定めます。

■ 策定体制

○三遠南信サミット

三遠南信地域の市町村長や議会、経済団体の代表、地域住民、国、県の関係機関などが一堂に集まり、平成5年度から毎年1回、地域の一体的な振興発展のために議論しています。この場で三遠南信地域連携ビジョンを審議し、決定しました。

○三遠南信地域連携ビジョン検討委員会

三遠南信サミットから委嘱を受けた地域住民や大学、経済界、行政の代表で組織し、オブザーバーである国、県の意見を反映しながら、検討案を策定し、三遠南信サミットへ提案しました。

○幹事会

三遠南信地域の行政、経済界、国、県の実務者レベルで組織し、検討委員会の審議に向け、関係間で調整しました。

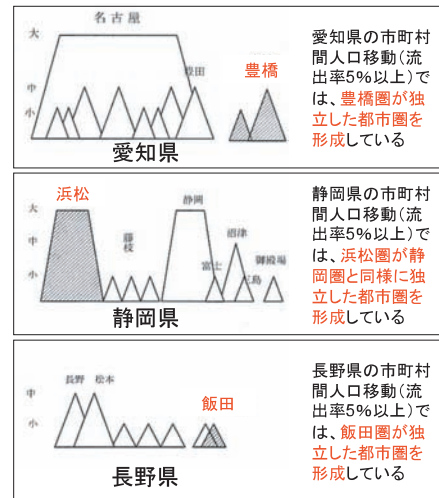
■ 三遠南信地域のポテンシャル

○都道府県に匹敵する経済規模

指標	順位	県名	規模	全国シェア (%)
事業所数※	17位	宮城県	107,565 事業所	1.8
		三遠南信	105,875 事業所	1.8
	18位	群馬県	101,876 事業所	1.7
製造品出荷額等	5位	埼玉県	138,021 億円	4.9
		三遠南信	137,974 億円	4.9
年間商品販売額	6位	兵庫県	134,778 億円	4.7
	17位	群馬県	60,455 億円	1.1
		三遠南信	58,822 億円	1.1
農業産出額	18位	栃木県	54,723 億円	1.0
	6位	愛知県	3,108 億円	3.6
		三遠南信	3,084 億円	3.6
	7位	熊本県	2,984 億円	3.5

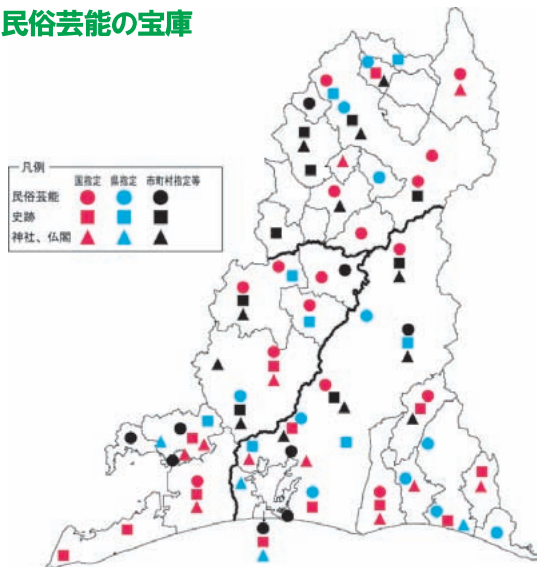
※事業所数は事業内容等不詳事業所を含む

○自立的な人口 230 万人の圏域

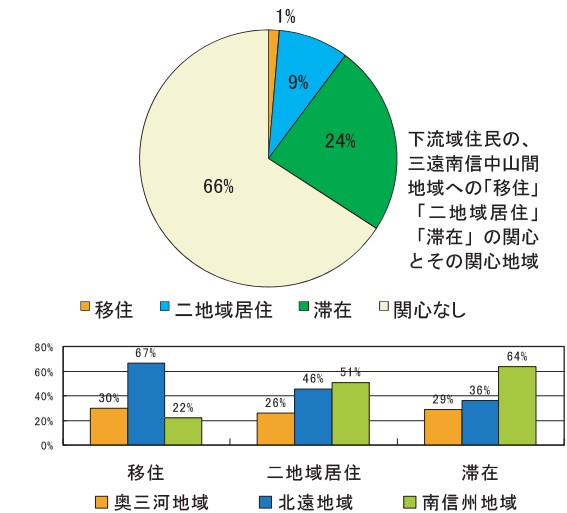


大：都市圏人口が100万人以上、核都市は50万人以上
中：都市圏人口が50万人以上、核都市は20万人以上
小：都市圏人口が10万人以上、核都市は5万人以上

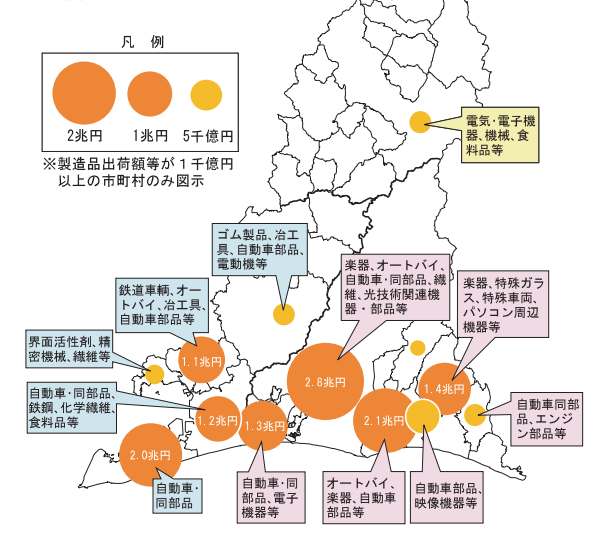
○民俗芸能の宝庫



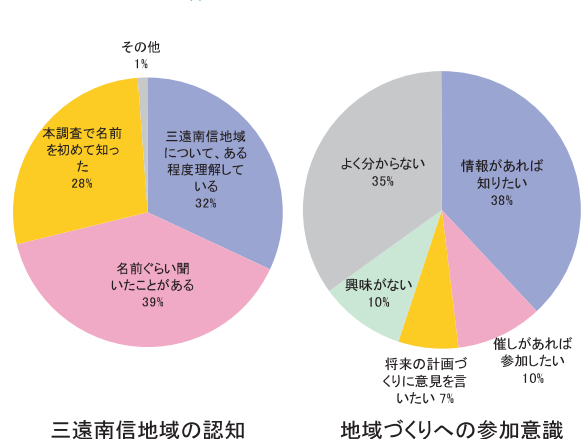
○下流域から上流域への定住指向の高まり



○特徴あるものづくり産業の集積



○三遠南信地域への高い関心



■ ポテンシャルから導き出される 5 つの課題

三遠南信地域のポテンシャルから、地域連携ビジョンを策定する上での課題として、次の 5 点を挙げます。

- 中部圏における「**自立した世界的都市圏**」としての機能強化
- グローバル化や産業構造に変化に対応した「**国際的な産業競争力**」の強化
- 自然や歴史に育まれた地域文化を活かした「**地域アイデンティティ**」の確立
- 天竜川・豊川流域圏において自然資源、人的資源、産業資源など補完と連携による「**流域循環圏**」の構築
- 道州制を見据えた「**県境を越える広域的な地域連携政策機能**」の構築

■ 三遠南信地域連携ビジョンのテーマ

三遠南信 250 万流域都市圏の創造 —世界につながる日本の中央回廊—



■ 目指すべき地域像

① 日本の中央回廊の形成

太平洋側と日本海側の両地域を東西日本の中心で結びます。



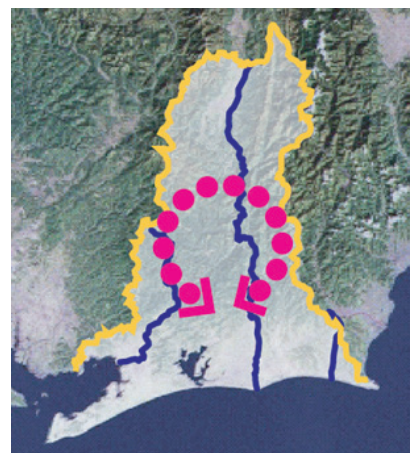
② 大伊勢湾環状地域を構成する中核的都市圏の形成

伊勢湾を中心に産業や文化等の多様なネットワークを構築します。



③ 流域循環圏の形成

上下流域が環境や経済をはじめ、広範な分野で有機的にネットワークする「流域循環圏」を構築します。



■ ゾーニング

三遠南信地域を東名高速道路、第二東名高速道路などを境界として、3つのエリアにゾーニングし、整備方針を掲げます。

①既存集積ゾーン

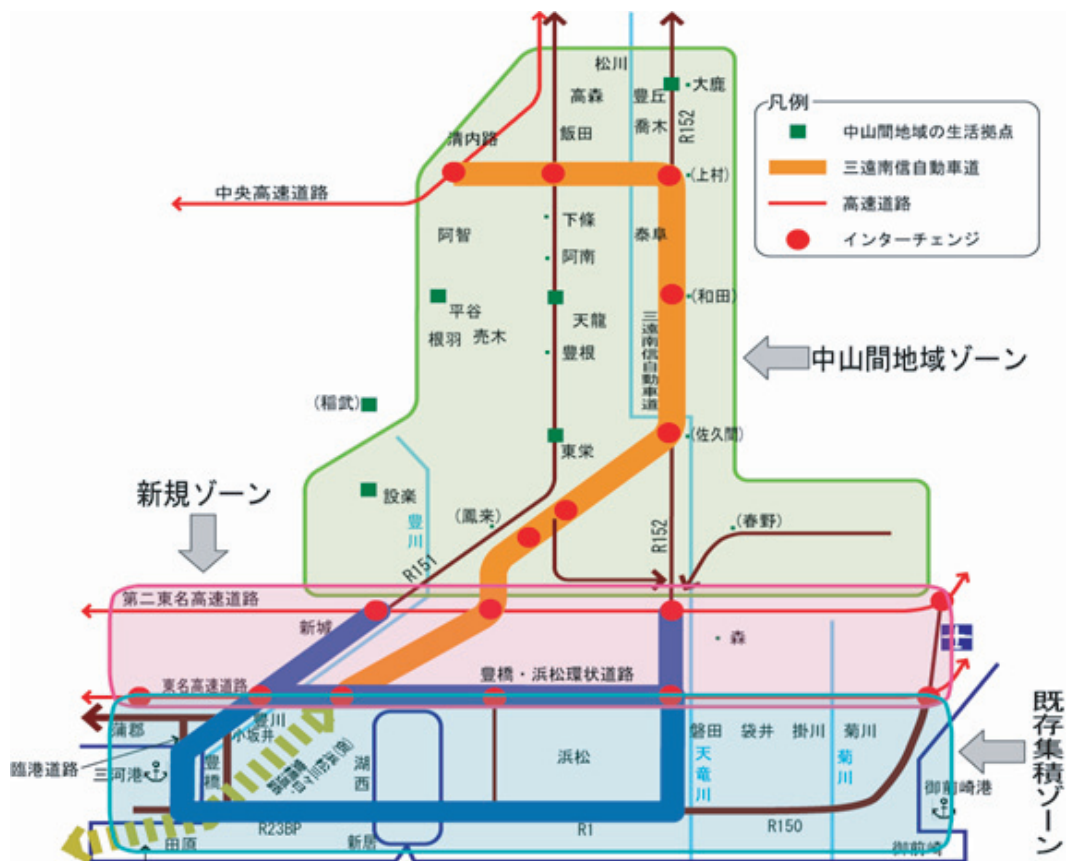
三遠南信地域南部の JR 東海道線、東名高速道路に沿った地域は、特色をもった都市が連続しており、高度な都市機能が集積しています。広域幹線道路として、東名高速道路や国道1号の東西幹線が地域を貫き、圏域の東西には三河港や御前崎港の国際港湾を擁しています。政令指定都市・浜松と中核市・豊橋とを広域交通網や情報網でより緊密に結びつけ、圏域の核として一体的な経済・文化圏を形成することにより、圏域全体の発展を牽引します。

②新規ゾーン

東名高速道路と第二東名高速道路に挟まれた地域で、住居系の郊外市街地と都市近郊農業地帯が混在する地域です。今後は、第二東名高速道路の開通に伴い、インターチェンジ周辺等への新たな産業集積が期待されます。浜名湖や地域の森林などの自然環境との調和を保ちつつ、バランスのとれた土地利用が必要です。

③中山間地域ゾーン

圏域北部の中山間地域は、過疎化・高齢化が進んでいる地域です。優れた自然環境の保全を基調とし、ライフスタイルの多様化に対応した交流人口の拡大を進めます。三遠南信自動車道の整備により、特色ある地域資源を活かすとともに、新規ゾーンや既存集積ゾーンとの活発な交流による地域振興が必要です。



■ 三遠南信地域連携ビジョンの5つの基本方針と重点プロジェクト

三遠南信地域の目指すべき地域像を踏まえたテーマを達成していくため、5つの政策の基本方針を設けて積極的に推進します。

○連携事業の政策体系

テーマ	政策の基本方針	推進方針	主要施策
三遠南信二五〇万流域都市圏の創造 ―世界につながる日本の中央回廊―	中部圏の中核となる地域基盤の形成	人との流動促進	三遠南信地域のゲートウェイの基盤整備 高原新定住圏の基盤整備 県境を越える三遠都市帯の基盤整備
		情報の流動促進	中山間地域の情報基盤整備 県境を越える情報共有化の推進
	持続発展的な産業集積の形成	既存産業の活力増進	人材・労働力の確保・育成 広域的な産業連携活動の推進 未利用資源の広域的な連携による有効活用の推進
		新規産業の創造と特徴ある産業クラスターの形成	特徴ある産業クラスターの形成 コミュニティ・ビジネスの育成 県境を越える大学・研究機関連携組織の形成
	塩の道エコミュージアムの形成	塩の道エコミュージアムによる文化の発信	歴史・文化資源の保全と風土記ネットワークづくり ものづくり文化の啓発と産業観光ネットワークづくり 多様な自然資源の保全とやすらぎのネットワークづくり
		エコミュージアムのプラットフォームづくり	エコミュージアムのプラットフォームづくり エコミュージアムの担い手づくり 三遠南信地域ファンづくり
	中山間地域を活かす流域モデルの形成	自然資源の循環モデルの形成	健全な水・物質循環を目指した環境保全活動の推進 森林資源の有効活用 新エネルギー導入の推進
		流域定住推進モデルの形成	流域定住推進体制の整備 中山間地域での居住環境の確保
	広域連携による安全・安心な地域の形成	生活環境の維持と質的向上	医療・福祉の連携 教育の連携 公共施設利用の柔軟性確保
		多文化共生の基盤づくり	多文化共生の基盤づくり
		広域的な防災体制の充実化	広域的な防災体制の充実化

○重点プロジェクト

1 中部圏の中核となる地域基盤の形成

- ① 三遠南信自動車道の整備促進と三遠伊勢連絡道路（伊勢湾口道路）構想の実現
- ② 三河港、御前崎港、中部国際空港、富士山静岡空港の整備と高速道路へのアクセス路の整備促進による国際ゲートウェイ機能の充実
- ③ リニア中央新幹線の早期実現と飯田駅設置
- ④ 豊橋・浜松環状道路を形成するネットワークの整備促進
- ⑤ 県境を越えるマスコミの連携

2 持続発展的な産業集積の形成

- ① 三遠南信ビジネスマッチングの促進
- ② 国内外に向けた人材・企業誘致の活動促進
- ③ 特徴ある産業クラスター拠点づくりと県境を越えた事業連携
- ④ 三遠南信地域大学フォーラムの設置

3 塩の道エコミュージアムの形成

- ① 「塩の道」風景街道の体制づくり
- ② 地域資源を活かす鉄道の有効活用
- ③ 海外への観光情報発信と外国人観光客誘致の促進
- ④ 三遠南信アンテナショップの開設

4 中山間地域を活かす流域モデルの形成

- ① 「健全な水・物質循環」の構築に向けた共同プロジェクトの推進
- ② 上流域と下流域の自治体が連携した流域定住の推進体制の整備

5 広域連携による安全・安心な地域の形成

- ① 医療分野の県境を越える連携の促進
- ② 三遠南信地域内住民に対する公共施設の広域利用推進
- ③ 県境を越える防災体制の強化

■ 推進体制

○三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA セナ)の設置

- ・ 平成20年度に「三遠南信地域連携ビジョン推進会議」を設置します
- ・ 地域住民、大学、経済界、行政の代表者により組織します

○三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA セナ)の役割

- ・ 重点プロジェクトを推進します
- ・ 重点プロジェクトの評価・見直しを行います
- ・ 道州制等の国の動きに対する働きかけを行います
- ・ NPO法人や企業等が取り組む連携活動に対する支援を行います

○新連携組織への移行

- ・ 平成24年に、三遠南信地域連携ビジョンに基づいた連携事業を行うため、恒常的な新・連携組織を設置します